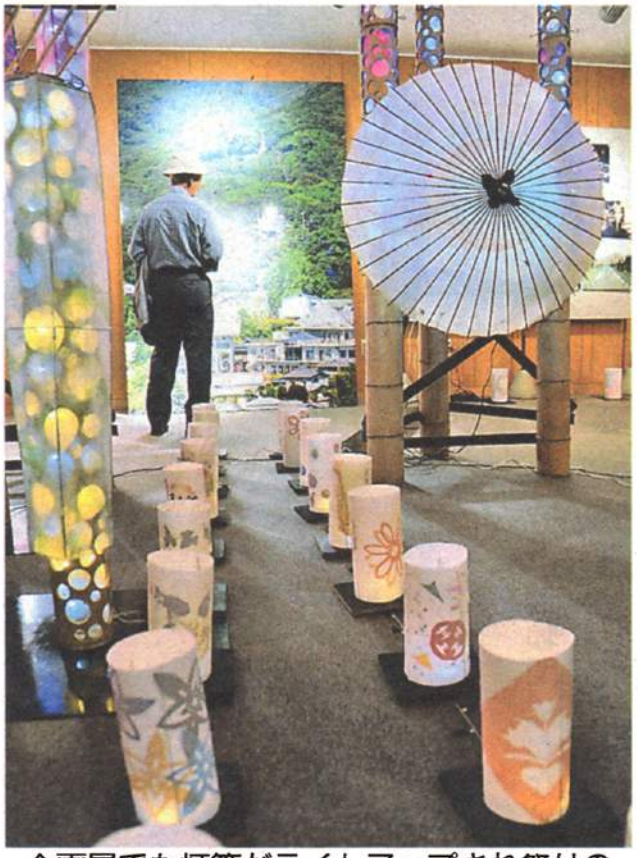
パレアで「本妙寺桜灯籠」

中止の祭典に代わり展示

熊本市西区の本妙寺一帯で夜桜の下に和紙の灯籠が並ぶ祭典「本妙寺桜灯籠」を再現した企画展が、同市中央区のくまもと県民交流館パレアで開かれている。熊本地震で本妙寺総門の仁王門が損壊し、毎年この時期に開催する祭典が中止になったことから、場所を移して展示している。会場には実物の灯籠が並び、祭りの雰囲気を体験できる。30日（日）まで。



企画展でも灯籠がライトアップされ祭りの雰囲気を体験できる

祭典は2002年、崇城大講師の内丸恵一さん（建築論）と学生たちが西区花園校区のまちづくりの一環で提案したことから始まった。地域住民たちが引き継ぎ、毎年3月の最終土曜日に開催している。地面に置く灯籠と、桜の木から垂らす吊り灯籠計約3800個が本妙寺の参道に並び、多くの家族連れでにぎわう。

本妙寺の被災状況を写した写真や祭りのポスター展示もある。入場無料。問い合わせは県生涯学習推進センター＝096（355）4312（平日のみ）。

（国崎万智）

2017年4月21日　西日本新聞　P.25